

新聞書き方講座を受けてその②

4組

私は学校の授業などで何度か書いたことがあったけれど、あまり何も考えずに書いていたので、こんなにも工夫するところがあるのだと知って、すごく驚いたのと、同時に次からこのようなことに気をつけながら新聞を書こうと思いました。

インタビューの時にファン目線になったり、私が考えもしなかったことが多すぎて、話していただいたことを一つ一つ資料で改めて確認してみると、理解に時間がかかるものが多かったけれど、いろいろ教えてくださったことを使って、トライやるの方に取材をしたり、レポートをしたり新聞を作ったりしたいと思います。そして次の2年生にしっかりとその場所について伝えられるような新聞になるようにがんばります。



5組

僕が、新聞の書き方講座を受けて大事なと思ったことは主に3つあります。

1つ目はメモの取り方です。メモはスピード勝負の中にしっかりと重要なことをおさえないといけないというのがよく分かり、ここが抜けてしまうといけないなと思いました。

2つめは、見出しです。まずは見てみたい、読んでみたいという興味を誘うことが大事ななと思いました。なので僕が新聞を作る時は、見出しで良い印象を与えて相手を引きよせるようにしたいです。

3つめは新聞の文字を書くときの工夫です。文が長すぎると新聞を読んでいる人は文字をずっと目でおっていないといけません。なので僕は文が長すぎて疲れないようしっかりとところどころで文を区切ってわかりやすく読んでもらえるようにしたいです。

このような学んだことをしっかり使いこなして、素晴らしい新聞をつくりたいです。



6組

新聞書き方講座を受けて、今まであまり気にしてなかったところに目を向けられるようになりました。

インタビューについて、質問をある程度考えたり、相手に情報について、下調べしておくことが大切なのと反対に、構成を固めすぎない方が良いのは驚きでした。インタビュー等をする時は、構成を練った方が良いのかと思っていたけど、確かに構成を練りすぎると、今度は相手から予想外の回答がきた時、逆に戸惑ってしまうし、その場で考えて出てくるような言葉や質問もあると思うので全くノープランなものも良くないけど抽象的に構成を練る方が自然なインタビューになりやすいと感じました。

新聞を書くときには、読み手の印象に残るような新聞を作ることが重要で、見出し、文章、写真、色、文字の大きさ・形・フォントを読み手に誤解を与えないけどインパクトのある新聞を作ると良いことを知りました。インタビューから新聞づくりまで頑張ります。



7組

私は新聞の書き方について教えてもらう前は、あまり写真の上手な取り方や新聞の間取りがよくわかりませんでした。でも今回詳しく教えてもらって、新聞はどのようにしたらわかりやすいか、色使いなどをどのようにしたら良いのかを学ぶことができました。新聞は人が見やすいように間取りを考えたり、工夫をすることも大事だということも教えていただきました。

書くときの字も汚くても良いから自分なりに上手に書けば良いということも学びました。私は新聞を書くのに、トライやるウィークでのインタビューや学んだことを自分でしっかり意識しながらやることも大事だと考えました。だから、自分の事業所で特にインタビューも頑張りたいです。新聞作りは、苦手だけれど、自分なりに工夫して間取りも考えて作りたいです。神戸新聞の方が例などを使って説明してくれたので、見出しの付け方も分かりました。トライやるの新聞づくりにこの教えてもらったことを活かしていきたいです。

